

3. 紹介「海外に学ぶ」:市民・行政協働による都市再生 米国・ポートランド・Portland

(Japa 理事 小畑きいち:青山学院大学元客員教授)

ポートランドは米国北西部オレゴン州最大の都市でコロンビア川とウィラメット川が合流する流域に位置する。市内からは雪を頂く秀麗なマウント・フッド(通称オレゴン富士・標高 3425m)を望むことができる自然豊かな都市である。人口は約60万人で、ポートランド/バンクーバー・メトロ圏人口(対岸のワシントン州バンクーバーも含める地域)は200万人超である。



ポートランド市街とウィラメット川



マウント・フッド(オレゴン富士)

クルマ社会とダウンタウン凋落から再生へ

1960年代から1970年代頃、米国はクルマ社会が急拡大し、都市は排気ガスと騒音による公害汚染などで住環境の悪化が進んだ。多くの住民は緑豊かで健康的な郊外のニュータウンへの転出が急増し都市の空洞化が進展した。一方、公害にまみれた市街地は低所得層が取り残され、商業は衰え賑わいを失い、市街環境も荒廃し、都市問題が深刻な課題となり、ダウンタウンは凋落傾向が強まった。

米国ではこのような都市問題に対して、ピーター・カルソープらがクルマ優先社会から歩行・公共交通などへの転換による「くらし」重視とする市街地再開発などを唱え「ニューアーバニズム」運動が都市再生運動として唱えられるようになった。ポートランド市も同じダウンタウンの衰退に対して、行政担当者や地区有力者などが再活性化対策の調査推進のために官民による委員会を設けた。委員会では都市再活性化・交通・大気公害減・都市環境改善を進める総合施策が議会で1972年に採択した。

市内公共交通整備と都市再生

都市振興、交通整備としてクルマ社会対応した高速道路(インターステート・エクスプレスウェイ)建設案が提示されたが、環境悪化を懸念する市民の強い反対で訴訟が起こされ、結果として廃止あるいは縮小された。課題の重要性を認識したゴールドシュミット市長はLRT(Light Rail Transit)導入による公共交通整備と環境保全の調和にとれた市街地再生政策へ転換を進めることとした。この方針に沿い1972年ころからそれまでの都市拡大政策から大幅に政策転換した。

また、計画では公共交通、都市再生、環境保全、排気ガス減などをねらい、快適な都市環境と街の賑わい再生を目標に、リベラルな市民と革新的な行政による協働で都市再生を推進する協働組織PDC(Portland Development Commission)を発足させた。また、市街地再生のためにこれまでの都市拡大から決別し、公共交通としてLRTの整備とユニークな発想として周辺自治体とともに

都市成長境界線(Urban Growth Boundary)を設けることし、持続的に住みたいと思えるような都市を目指すこととした。

ほぼこの頃、連邦政府はインターステート網の全米における整備完了に伴い、都市内交通整備として、これまでの高速道路維持財源の地方への移転委譲など促進を決定した。1973 年には公共交通整備に 2/3 の補助を盛り込む連邦政府、州、地域自治体による財政支援体制が設けられ、都市再生のための交通基盤整備に供せられこととなった。

ポートランドは人のモービリティをクルマから公共交通へのシフトによって、市内環境汚染軽減とダウンタウン再開発を目論み、公共交通という都市基盤整備によってダウンタウン商業街活性化と近隣住居区の整備再生とを結びつける生活快適都市を目指した。



ストリートカーとレンタサイクル



Pioneer Square 付近の LRT 路線と街路景観

1986 年には、MAX(Metropolitan Area Express)と称する LRT を Portland-Gresham 間を開通させた後、路線が拡充され、現在 Max および従来型の路面電車 streetcar 路線を含め 9 系統(総延長は約 110Km)が構成されるに至っている。一般道路整備費用と同様に交通事業独立採算制を採用せず、乗降料金は無料(後にリーマンショック後に有料とした)とし、ダウンタウンにおける駐車場設置を制限することにより、クルマ利用の利便を制限することで利用者を増加させた。

その結果、ダウンタウンへの転入増が促進され、再び賑わい、周辺住宅地も快適な環境となり、利便性が増したことで市内における住居購入比率が 56%と上昇した(2000 年:全米平均は 45%)。このポートランドの都市再生は全米において成功の好例として注目されるようになった。

[出典:参考]

- (1)2035 COMPREHENSIVE PLAN 2020 MARCH 2020 CITY OF PORTLAND, OREGON
- (2)“Portland-世界で一番住みたい街をつくる”学芸出版社 山崎満広 2016
- (3)“REGIONAL GROWTH MANAGEMENT REGIME: The Case of Portland, Oregon” Chris. Leo, Univ. of Winnipeg, 1998
- (4)“環境とバリアフリーからの都市公共交通考察-路面電車(LRT)の再評価-” 浦和論叢 小畑さいち 2008
- (5)<https://trimet.org/max/> & <https://portlandstreetcar.org/>